



第 131 号
発行者
公益社団法人
広島市身体障害者
福祉団体連合会

令和八年の年頭によせて

新たな年の初めに当たり、謹んで皆さまに初春のお慶びを申し上げます。

昨年広島は、被爆八〇周年を迎えました。我々は、核兵器廃絶、世界の恒久平和を改めて強く願ってまいりましたが、未だ世界各地で起る紛争・核の脅威に心を痛めるとともに、世界恒久平和を祈らずにはおられません。

国内でも、各地で自然災害や山林火災、市街地での大規模火災が発生するなど、辛いニュースに多く接しました。被害に遭われた方々が早く元の生活を取り戻されますようお願いいたします。

広島でも、養殖カキの大量死など暗い事案も起こっています。物価の高騰や異常気象など厳しい問題も山積しています。

障害を抱える我々はこれまで以上に歯を食いしばって、こうした状況に立ち向かっていかなければいけません。一人のできることに限界があります。今こそ連携・協力して取り組んでいく必要があります。

しかしながら、我々「市身連」の構成団体では、会員の高齢化や会員数の減少など組織の存続に関わる重大な危機に直面しています。

今年、市身連発足75周年を迎えます。広島市では、広電の路面電車がJR広島駅2階部分に乗り入れる広島駅ビル・商業施設「minamo (ミナモア)」の開業やサンフレッチェ広島の新スタジアム「サンフレッチェ広島レジーナ」の皇后杯優勝など明るい話題も見受けられます。

こうした話題を弾みにして、みんなが知恵を出し合い、より一層積極的に魅力的な活動を展開し、強いきずなを結び直したいと考えています。

す。

また、障害のある人もない人も、全ての市民が互いに人格と個性を尊重し、支え合い自立しながら暮らしと生きがい、地域を共に創っていく地域共生社会の実現を目指して、行政に対しては障害者施策の充実を強く求めるとともに、民間事業者に対しては差別解消・合理的配慮を求め働きかけを行ってまいりたいと考えています。

今年一年の皆様のご健勝とご多幸をお祈りするとともに、関係団体様の活動の力強い推進と、当連合会の活動へのご理解・ご協力をよろしくお願ひします。

公益社団法人
広島市身体障害者福祉団体連合会

会長 向井 助三すけぞう



文化研修会

11月30日(日)、広島市総合福祉センター5階の大会議室において、市身連文化研修会を、手話通訳・要約筆記及び事務局を含め65人の参加者を得て開催しました。

今回の研修会は、「現代イケメン学」学々男性ファッションと理想の男性像の変遷」という演題で、講師に広島女学院大学生活デザイン学科教授の三木幹子氏をお招きし、講演をしていただきました。

「現代イケメン学」とは、戦後の理想の男性像の変遷を通して、日本の女性の恋愛観、結婚観、ライフスタイルの変化を考察し、女性文化史を探求するもので、時代に合せて男性が、中性化(女性化)と男性化を繰り返すファッションの歴史を解説していただきました。

カミナリ族、みゆき族、ジーンズ革命、竹の子族、ツッパリ、ジャニーズ系アイドル、韓流ブームなどのファッションや若者のライフスタイルを、年代を追って整理・説明されると、参加者からは当時の推しの俳優・アイドルの登場に歓声があ

がりました。
こうした変化・ブームの背景にある世相や政治・経済情勢を考察すると日本の歴史の一端を垣間見ることができるとを教えられました。

講演会終了後に参加者から、「当時の記憶が懐かしく思い出せた。」「人生を振り返ることができた。」などの声が寄せられ、楽しみながら知的好奇心も満足されたようでした。



文化研修会で講師に質問する参加者

施設見学会

10月17日(金)、45名の参加を得て、東広島市及び世羅町において、施設見学会を実施しました。

リフト付きのJRバス2台に分乗し、まず西条の「賀茂鶴酒造株」に到着。蔵の一つの説明会場で日本酒ができるまでの工程や、利き酒ならぬ「利き水」を体験。賀茂鶴の仕込み水と市販のミネラルウォーターを飲み比べ賀茂鶴の仕込み水を当てるというもので、なかなか難しく正解者は半分程度でした。

その後、一号蔵の展示室で、酒米を蒸す「こしき」や、もろみタンクなどを説明してもらいながら見学して回りました。最後は見学室直売所で目当ての日本酒を試飲し、限定酒などを買い求めています。

続いて、「せらワイナリー」に移動。



施設見学会 (賀茂鶴酒造)



施設見学会 (世羅高原農場)

途中のフルーツロードでは、道路の舗装で「となりのトトロ」のメロディが流れる楽しい仕掛けがされていました。

せらワイナリーのレストランでバーベキューを堪能し、ワイナリーショップで面白い物を楽しみました。

その後、「世羅高原農場」を訪れました。

『ダリアとガーデンマム祭』が開催中で、550種7,500株の豪華絢爛のダリアと、30品種13,000株の可愛いガーデンマムが色鮮やかに咲き誇っていました。

最後は、道の駅世羅でのお買い物。松茸や地元の新鮮な野菜などが売

られていました。平日ですが多くの来店客で大変賑わっていました。天気も良く、皆さん楽しんでいただいたと思います。

第20回市身連 グラウンド・ゴルフ大会

10月11日(土)、広島市西部埋立第五公園運動広場において、第20回広島市身体障害者グラウンド・ゴルフ大会を開催しました。

天気にも恵まれ、手話通訳、要約筆記を含め24名の参加のもと、爽やかな汗を流しました。

上土井理事(体育部会長)のあいさつの後、6つのグループに分かれ8ホールを2ラウンド元気に明るくプレーされ、一打ごとに一喜一憂して、会場内のあちこちで大きな歓声や拍手があがっていました。グラウンド・ゴルフに初めて挑戦するという方も何人もおられました。いきなりホールインワンを決める方もいて、大いに盛り上がりました。

表彰式では、障害区分ごとに上位3位に表彰状と賞品の授与があり、他にホールインワン賞や敢闘賞の贈呈がありました。

次回の上位入賞を目指すと意気込む方や「来年も元気で参加しよう。」と誓い合う参加者など、和気あいあいとした大会となりました。



市身連グラウンド・ゴルフ大会の参加者集合写真

第49回中・四国身体障害者福祉大会（こうち大会）

11月7日(金)に高知市の高知県立県民文化ホールにおいて、第49回中・四国身体障害者福祉大会(こうち大会)が開催されました。

中・四国の身体障害者が一堂に会し、全ての人々がお互いに尊重し支え合いながら、共に安心して暮らせる共生社会の実現を目指して、身体

障害者が抱える諸課題をアピールするとともに、障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的として開催されるもので、中・四国各地から約700名の参加者が集い盛大に開催されました。

当連合会からは、事務局を含め11名が参加。

前日の11月6日には、せっかくの高知への旅でしたので、「仁淀ブルー」で有名な仁淀川の「にこ淵」を訪れ、足の不自由な参加者も滝つぼ近くまで下って幻想的な碧の絶景を楽しみました。また、有名な「高知アイス」のお店にも立ち寄り、それぞれ好みのソフトクリームなどを堪能しました。



仁淀川上流「にこ淵」の滝つぼ



中・四国福祉大会の表彰を待つ受章者の皆さん

大会当日は、高知県の温かいお出迎えを受け会場入り。会場には、特産品や福祉作業所の製作した作品販売等で場を盛り上げていました。

第一部の式典では、公益財団法人高知県身体障害者連合会の宮崎俊雄会長の開会のことばから始まり、高知県、高知市の福祉部門の幹部の歓迎のことばや、高知県議会の三石文隆議長(たか)の祝辞を賜りました。

続いて、各県・市から選ばれた26名の方に大会会長表彰が行われました。広島市からは、蔵本幸子(くらもと)さん(ろ)うあ協会)、小島秀夫(こじまひでお)さん(西区)、宅見伸夫(たくみのぶ)さん(安佐南区)の3名が表彰されました。

第二部の議事では、関係省庁等に要望する提出議案の説明、大会宣言

や大会決議が採択されました。

今回は、11月6日(金)に広島県三次市の「三次市民ホールきりり」で開催される予定です。

※広島県内での開催ですので、多くの方の参加を期待しています。恒例の施設見学会の代わりに、リフト付きJRバスで中・四国福祉大会参加の後、プチ観光を計画しています。

【大会スローガン】

○ 災害時の障害者支援体制を早急に確立させよう

○ 障害者差別解消法の一層の理解促進を図り「共生社会」を実現しよう

【大会宣言】

国連における障害者権利条約の採択から、19年が満ちようとしている。全国の仲間が長年取り組んできた障害者の人権に関する活動が、日常生活の場において評価される時代が到来した。

この間、共生社会の実現に向けて整備された法・制度が、実効性をもって社会に広がるよう、特に、民間事業者が義務化された合理的配慮の

取組が周知・指導され、広報及び相談体制が充実されるよう、国と地方公共団体に求める。

また、自然災害は日本各地で絶えず間なく起こっている。災害時に障がい者が誰一人取り残されることなく避難でき、避難生活において大きな困難を強いられることにならないよう個別避難計画の作成、福祉避難所の確保・設置、迅速・確実な情報取得のための体制整備など、国と地方公共団体が一体となって災害時の具体的で実効性のある障がい者支援体制の整備を早急に講じるよう要望する。

私たちは、これらの課題を自分事として地域で声をあげていく。そして、中・四国ブロックの障害者団体は、この大会を契機に、改めて相互の連携を一層強め、障がいの有無に関わらず、すべての人々がお互いに尊重し、支えあいながら、ともに安心して暮らせる共生社会の実現を目指し、一致団結して行動することをここに宣言する。

【大会決議】

一、民間事業者における合理的配慮の取組が円滑に進み、障がい者が

地域で安心して暮らすことができるとなり、相談体制の更なる充実と事業者等への周知・指導の強化に努めるよう要望する。

一、障がいの個別避難計画について、行政、福祉関係団体、地域の関係者等が連携し、障害特性に応じた適切な計画が、すべての市町村において早急に作成されるとともに、福祉避難所の確保・設置・強靱化など、災害時の具体的で実効性のある障がい者支援体制の整備促進を要望する。

一、物価高騰の状況下にあつて、障がいの日常生活に支障が生じることがないように、障害基礎年金等の支給額引き上げや障がい者控除の拡充、社会保険料や医療費の自己負担の軽減など、所得を確保するための措置を講ずるよう要望する。

一、障がいの者が、住み慣れた地域で安心して生活していく上で不可欠な移動手段を維持していくための環境整備を要望する。

一、市町村障がい者団体の活動が維持継続できるように、市町村行政等との連携、協力体制を確保する

等、行政による団体の育成支援が一層図られるよう要望する。

一、デジタル社会の推進において、障がいの者にも等しく利便性が供与されるよう配慮のうえ対策を講じるよう要望する。

障がいの者が地域で生きがいを持ち、安心して暮らせる社会環境の実現に向け、障害者施策の更なる充実を目指し、以上決議する。

第24回全国障害者スポーツ大会「わたしがSHIGA輝く障害スポ2025」

10月25日から27日までの3日間、第24回全国障害者スポーツ大会「わたしがSHIGA輝く障害スポ2025」が、滋賀県内各地で開催されました。

広島市手をつなぐ育成会の安森博幸副会長が広島市の選手団団長を務め、23日の選手団結団壮行式では山本勇基選手（バレーボール競技）が選手24名を代表して堂々と選手宣誓を行いました。

大会の結果は、陸上、卓球、フライングディスクで金メダル7個、銀メダル10個、銅メダル9個、合計26個のメダルを獲得しました。



全国障スポ広島市選手団結団壮行式

第25回全国障害者スポーツ大会は、今年10月23日(金)～26日(月)の4日間、大会愛称を「青の煌めきあおもり障スポ2026」、「翔ける未来へ縄文の風に乗って」をスローガンに青森県で開催される予定です。

広島市心身障害者福祉センター「2025文化祭」

障害者週間の記念事業として、広島市心身障害者福祉センター「2025文化祭」が、令和7年12月7日(日)に、広島市心身障害者福祉センターで開催されました。

今回のテーマは、「ひとりひとりみんなが主役」で、約3千人の来場

者で賑わいました。

午前10時からのオープニングでは、テーマソング「つないだ手と手で伝えよう」を手話と共に合唱し、宇津木隆夫実行委員長の開会宣言、挨拶、役員紹介が行われました。

パフォーマンス広場では、車いすダンス、サックス演奏と手話歌、合唱、和太鼓と手話ダンス、ソーラン演舞、笑いヨガ、中国武術・氣功表演、フォークダンスなどが披露され、大きな拍手が送られていました。

1階から3階の各部屋では、障害者への理解と認識を深めてもらうため、各種教室や同好会、デイサービス等で作成した絵画や書、写真など



文化祭パフォーマンス広場での演奏



カープ選手の集い

の作品の展示やグループ活動の発表、模擬店の出店がありました。

1階の印刷室では手話体験とバザー、小体育室では野菜、焼き芋、ゼンざいや手作り作品の販売やゲームコーナーが設けられ、2階では点字体験、陶芸、版画、絵画、写真、書、ツールペイントなどの作品の展示と教室が開かれました。3階ではバザーや縄文組みひもづくり、ゲームコーナーやお茶席が設けられました。

多目的室では、今年初めて歯科衛生士会と広島市薬剤師会の歯科相談・お薬相談があり、血圧・握力・肌年齢などが測定できるコーナーなども順番待ちになるほど多くの人で賑わっていました。

各階のクイズラリーにも列ができ、正面玄関の飲食ブースにも人が並び、テント下と休憩室でも大勢の人がおいしそうに食事をしていました。

**第26回広島市障害者
フライングディスク大会**

令和7年11月9日(日)にホットスタッフフィールド広島(広島広域公園陸上競技場)において、第26回広島市障害者フライングディスク大会

また、今年の文化祭実行委員会企画の一つ「広島市消防音楽隊」の演奏は大変素晴らしく、来場者は熱心に聞き入っていました。

最後に特別企画として、広島東洋カープ選手との集いがあり、斉藤優汰投手、清水叶人捕手とスライリーが登壇。会場は満員で、両選手は次シーズンに向けての意気込み・目標などのインタビューに最初は緊張した様子でしたが、観客の声援や拍手で次第にリラックスして、笑顔で質問に答えていました。

初々しい両選手とスライリーの弾けたパフォーマンスに、観客は楽しいひと時を過ごしました。

令和7年11月9日(日)にホットスタッフフィールド広島(広島広域公園陸上競技場)において、第26回広島市障害者フライングディスク大会

**第26回広島市障害者
フライングディスク大会**

この大会は、令和8年10月に青森県で開催される第25回全国障害者スポーツ大会「青の煌めきあおもり障害者2026」の広島市予選を兼ねたものです。

身体11名、精神2名、知的64名、計77名の選手が競い合いました。

あいにくの雨で、選手はテントの下からディスクを投げるなどの悪条件での競技だったため、日頃の練習の成果を十分発揮することができなかったようでしたが、各選手広島市代表を目指し、熱戦を繰り広げていました。

この大会は、令和8年10月に青森県で開催される第25回全国障害者スポーツ大会「青の煌めきあおもり障害者2026」の広島市予選を兼ねたものです。

身体11名、精神2名、知的64名、計77名の選手が競い合いました。

あいにくの雨で、選手はテントの下からディスクを投げるなどの悪条件での競技だったため、日頃の練習の成果を十分発揮することができなかったようでしたが、各選手広島市代表を目指し、熱戦を繰り広げていました。



フライングディスク大会アキュラシー競技



第21回 マーガレットコンサート

1月25日(日)、障害者と広島交響楽団のジョイントコンサート「第21回マーガレットコンサート」が国際会議場フェニックスホールで開催されました。

イスリート5(5m先のゴールを狙う)が10点1人、9点4人という成績でした。
飛距離を競うディスタンス競技では、男性・女性ともに、スタンディング及びシッティングの部で飛距離を競いました。



広響(前)とSTU48(後)のセッション

今回のコンサートは、被爆80周年記念事業として平和をテーマに掲げ、和太鼓奏者の今福優氏と瀬戸内7県を拠点とする女性アイドルグループSTU48をゲストとして開催、来場者約700人が迫力ある歌と演奏を満喫しました。

このコンサートは、広島市が主催するもので、障害関係の各種団体から実行委員を選出、ボランティアの方々及び広響の協力を得て実現しているものです。

第1部は広響の単独演奏及び今福氏と和太鼓のセッション、第2部は広響と合唱、STU48との共演で、秋元康氏作詞の「365日の紙飛行機」、「花は誰のもの？」などが披露

されました。最後は、出演者全員による「ひろしま平和の歌」の合唱で幕を下しました。

地下2階のロビーの一角では障害者作業所などの物販コーナー、飲み物の提供ブースも開設。幕間では人だかりができるほどの人気を博していました。

障害を理由とする差別解消 に向けた講演会&体験会

1月12日(月・祝)に、広島駅南口地下広場において、「障害を理由とする差別の解消に向けた講演会&体験会」が、広島市主催で開催されました。

東京2025デフリンピックのボウリング競技代表の佐藤浩美選手の講演と、佐藤氏と国際手話通訳者の郡美矢氏のトークセッションに、80人を超える聴衆が集まりました。

佐藤氏は広島市在住で、夫の勧めで15年程前にボウリングを始めたこと、公式戦には5つ以上のボウルを持参することなど、興味深いお話を聞くことができました。

郡氏は海外で歯科技工士として働き、海外の手話が日本のものとは違



障害者差別解消に向けた講演会&体験会

うことを実感し、国際手話を学べた方で貴重な体験談を聞くことができました。講演会・トークセッションの後は、手話や要約筆記の体験会が開かれ、多くの方が参加されました。

こうした講演や交流を通じて、障害のある人もない人も、互いに人格と個性を尊重し合える社会の実現に近づくことを期待しています。

各身障協だより

◆中途失聴・難聴者協会

11月16日(日)、市福祉バスを借り「紅葉の帝釈峡バスハイイク」を催行



中途失聴・難聴協会バスハイク

しました。

参加者は難聴者会員9名、要約筆記者2名の計11名でした。

広島駅前を出発して、山陽道を経由して帝釈峡に到着。現地で庄原市観光機構の方々3名の出迎えを受けたのには驚きました。

午前中は神龍湖を観光船で遊覧しました。庄原市観光機構の方々には、神龍湖の主な見所では事前に用意されたフリップを見せて頂き、ゆっくりで分かり易いガイドさんの説明で大いに楽しめました。

国民休暇村で比婆牛の焼肉料理に舌鼓を打ち、午後は雄橋^{おんはし}まで徒歩で見て回りました。

周辺の山々は紅葉、黄葉でグラデ

ーション化され、見事な錦織のごとくでした。ガイドさんの説明も面白いエピソードで盛りでした。

「この辺りは、大昔は海の底だったんだよ」との話に参加者全員が「へえ、そうだったのか」とうなずいてばかりで本当に楽しい秋の一日を満喫しました。

庄原市観光機構の皆さん、ありがとうございました。

◆肢体障害者福祉協会

11月1日(土)、令和7年度肢体障

害者等生活行動訓練を、呉市の大崎下島にある御手洗町並み保存地区と、道の駅西条「のん太の酒蔵」において実施。参加者は18人でした。

御手洗では、江戸みなとまち展示館・乙女座などガイドさんと共に約1時間の散策をして、昔ながらのレトロな雰囲気を楽しみました。

その後、蒲刈島で昼食を食べて、道の駅西条「のん太の酒蔵」に行き、お土産を購入し帰路につきました。和気あいあいとした雰囲気です。一日でした。

また、令和8年1月17日(土)、東区地域福祉センターで、肢体協平和大学(文化研修会)を開催しました。



肢体協平和大学での尺八演奏の様子

講師は、尺八演奏者中村亮太^{なかむらひろた}先生で、参加者は19人でした。

尺八を使って、懐かしい唱歌や歌謡曲を演奏し、さらには、中国から日本に渡って来た尺八の由来や歴史また、尺八の演奏における呼吸法についての興味深い話がありました。

祝 表彰受賞者

永年にわたり障害者の自立更生援助にご尽力され、功績のあった次の方々が、表彰されました。誠にありがとうございます。(敬称略)

○厚生労働大臣表彰

林田^{はやしだ} 達郎^{たつろう}(安佐南区身障協連合会)

○広島市長表彰

吉田^{よした} 孝三^{こうぞう}(安佐南区身障協連合会)
山田^{やまだ} 京子^{きょうこ}(中途失聴・難聴者協会)

○中・四国ブロック連絡協議会会長

表彰

蔵本^{くらもと} 幸子^{さちこ}(広島市ろうあ協会)

小島^{こじま} 秀夫^{ひでお}(西区身障協会)

宅見^{たくみ} 伸夫^{のぶお}(安佐南区身障協連合会)

○中国社事業功労賞

11月27日(木)、地域福祉に貢献した個人・団体に授与される「中国社事業功労賞」を向井会長が受賞されました。

中国新聞ビル8階で行われた表彰式では、他2名の受賞者とともに、中国新聞社事業団の山本^{やまもと}一隆^{かずか}理事長から表彰状が贈られました。



中国新聞社事業団山本理事長から表彰状を受け取る向井会長

表彰状にはひとりひとりその功績が具体的に記載されており、厳粛な雰囲気の中、山本理事長がそれを読み上げられました。

向井会長は、市身連会長を20年、佐伯区及び肢体協の役員は50年を超える期間務められ、その功績が認められたものです。
おめでとうございました。

その他のお知らせ

◆広島電鉄(株)のモビリーデイズ

一昨年から運用が開始されている乗車券システム「モビリーデイズ」について、当連合会では広島電鉄(株)による説明会を開催するなど皆様にご理解いただくため、障害者割引の利用方法などをお知らせしてきました。

これまで、今までモビリーデイズが使えなかった市内を走る広島バス・広島交通・JRバス中国の路線バスで、2月1日からモビリーデイズの利用が可能となりました。

定率10%割引や障害者割引の適用も可能となるようですが、この3社のバスでは現金での社内チャージは

できないそうです。

ICOCA(イコカ)などの交通系ICカードとモビリーデイズの使い方など新しい動きがあれば、お知らせしたいと思います。

◆公共施設等の障害者乗降スペース

一昨年、JR西広島駅身障者用乗降スペースが隣接するコインパーキングの出入路とされた事案が発生し、身障者用乗降スペースの位置を変更する措置がとられたことは記憶に新しいと思います。

最近では、JR広島駅北口の身障者用乗降スペースに一般車両が駐車し乗車待ちをしており、身障者の利



広島駅北口身障者用降車スペース

●市身連今後の主な行事予定●

市身連の今後、令和8年度の主な行事予定(案)をお知らせします。
よろしく申し上げます。

行事名	開催月日	開催場所	内容等
総会、理事会	3月8日(日)	市総合福祉センター	予算、事業計画審議等
各部会	4月12日(日)	市総合福祉センター	
監査会	4月18日(土)	市総合福祉センター	
市身連ボウリング大会	5月30日(土)	ミスズボウル	政令市親善大会予選
総会、理事会	6月13日(土)	市総合福祉センター	決算審議等
日身連全国福祉大会(せんだい大会)	6月17日(水)~19日(金)	仙台市	
市身連福祉大会	7月12日(日)	市総合福祉センター	
政令指定都市協議会・親善スポーツ大会	9月17日(木)~18日(金)	福岡市	
中・四国身体障害者相談員研修会	10月2日(金)	高松市	
市身連グラウンド・ゴルフ大会	10月31日(土)	西区商工センター西部埋立地	
中・四国福祉大会(ひろしま大会)	11月6日(金)	三次市民ホールきりり	
市身連文化研修会	11月22日(日)	市総合福祉センター	

用が阻害されるとの新聞報道もされています。

このように身障者用の施設や設備の利用に際して、お困りのことがありましたら、市身連又は障害種別団体さん、あるいは各区の身障団体さんに、ご連絡・ご相談いただければ

と思います。

行政や施設管理者への要望行動につなげていければと思いますので、お気軽にお申し出ください。



赤い羽根共同募金

この会報は、赤い羽根共同募金の助成を受けて発行しています。

発行者 公益社団法人 広島市身体障害者福祉団体連合会
 会長 向井 助三
 〒732-0822 広島市南区松原町5番1号
 BIG FRONT ひろしま5階
 電話 (082) 2633-4524
 FAX (082) 2633-9713
 ホームページ <http://shishinten.com/>
 編集者 情報宣伝部会
 部長 上野 玲子